

平成 29 年度大津波プロジェクト主催支援シンポジウム  
「連綿と続く被災文化財再生への歩みー博物館復興をめざしてー」

2011 年に発生した東日本大震災から 7 年目の節目となる 3 月 11 日。発災以来、岩手県内の被災文化財の救出・安定化処理に中心的役割を果たしてきた岩手県立博物館において、シンポジウムを開催するはこびとなりました。津波により甚大な被害を受けた陸前高田市立博物館をはじめとする被災文化財の復興は、全国の博物館・関係機関の協力の下に現在も連綿と続いています。今回は、これまでの活動の成果を企画展でご紹介するとともに本シンポジウムにおいて議論を深め、今後の文化財、そして博物館の復興へとつなげていきたいと思ひます。是非、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

記

日 時 : 平成 30 年 3 月 11 日 (日) 10 時～16 時  
会場 : 岩手県立博物館講義室

次 第 (案)

9 時 30 分受付

10 時

1 開会のことば

2 主催者挨拶

高橋廣至 (津波により被災した文化財に関する保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会長)

10 時 15 分

3 シンポジウム

テーマ 1 被災文化財再生の意義

(1) 公益財団法人日本博物館協会の取組みをとおして

半田昌之 (公益財団法人日本博物館協会)

(2) 東京国立博物館の取組みをとおして

神庭信幸 (前東京国立博物館)

テーマ 2 被災博物館資料再生の現状と課題

(1) 自然史標本再生の現状と課題 鈴木まほろ (岩手県立博物館)

(2) 文化財再生の現状と課題 赤沼英男 (岩手県立博物館)

(3) 絵画関係資料再生の現状と課題 土屋裕子 (東京国立博物館)

(昼食・休憩)

13 時

テーマ 3 再生された資料の活用と確立された安定化処理技術の普及

(1) 福井県立歴史博物館における取組み 水村伸行 (福井県立歴史博物館)

(2) 徳島県立博物館における取組み 長谷川賢二 (徳島県立博物館)

#### テーマ4 海を越えた絆の形成

(1) 太平洋を渡って90年、答礼人形『ミス岩手』が果たした役割  
宮川治代 (前米国バーミングハム公立図書館)

(2) 戦争と震災、二度の危機を乗り越えた友情人形と答礼人形『ミス岩手』の歴史的対面  
デニー・ギュリック (米国メリーランド大学)  
フランシス・ギュリック (米国メリーランド大学)

通訳 宮川治代

1927(昭和2)年、悪化が進む日米の関係を心配した米国宣教師 シドニー・ルイス・ギュリック氏は、海を越えた友情の絆が未永く続くようお願いを込め、雛祭りにあわせて12,000体をこえる友情人形を日本の子供たちに贈りました。日本ではその答礼として、渋沢英一氏らが中心となり、厳選された58体の市松人形を、もの言わぬ親善大使として米国に贈りました。

あれから90年余りの歳月が流れた今、戦争と津波、2度の危機を乗り越えた友情人形(スマダニエル・ヘンドレン)と米国アラバマ州バーミングハム公立図書館が所蔵する『ミス岩手』が岩手県立博物館において歴史的対面を果たしました。米国からお招きした3名の演者が、人形が果たしてきた役割と海を越えた絆の重要性、そして震災からの復興についてそれぞれの思いを語ります。

14時46分

(1分間の黙祷)

(休憩)

15時00分

4 天に響け 音の再生に成功したオルガン演奏  
奏者：中村由利子(作曲家・ピアニスト)  
解説：神庭信幸(前東京国立博物館)

\*被災地の復興、そして博物館の再興への希望、海を越えた絆の形成にふさわしい曲目を数曲選曲のうえ演奏します。

15時30分

5 被災地からのメッセージ  
被災資料再生への取組みと博物館復興をめざして  
本多文人 (陸前高田市立博物館)

15時45分

6 フロアーからの感想

16時

7 総括・閉会  
半田昌之 (公益財団法人日本博物館協会)

## 平成 29 年度大津波プロジェクト主催支援シンポジウム

2011年3月11日の東日本大震災発災から7年が過ぎました。文化財保護法制定以降、最大規模の自然災害発生を受け、被災地では今もさまざまな分野で懸命の復興が進められています。この震災によって東日本太平洋岸に立地する博物館をはじめとする文化施設も、甚大な被害を受けました。岩手県陸前高田市の中心部に立地していた陸前高田市立博物館は最も深刻な被害を受けた施設の一つで、現在も24万点を超える被災資料の再生に、さまざまな機関が連携し取り組んでいます。

再生を進めている資料の中には、これまでに構築された安定化処理技術を改良し、さらに進化させた技術を用いて対処する必要があるもの、新たな技術を確立し実施しなければならないものが相当数含まれています。加えて、安定化処理を施した資料の中には最近、異臭や変色といった異常が生じたため、その原因を明らかにし、再処理しなければならない資料が相当数確認されています。

「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」では、これまでに確立された安定化処理技術の伝承と普及を図り、被災文化財等再生の取り組みに対する理解を深めること、今後起こりうる類似自然災害の発生時における円滑な対処を図ること、被災した博物館の復興を支援することを目的として、安定化処理技術をテーマとしたさまざまな事業を実施して参りました。

岩手県立博物館において開催する支援シンポジウムでは、東日本大震災発災後、被災施設からの文化財等救出と安全な場所への移動、そして現在も続けられている安定化処理の過程をたどるとともに、今後の課題を確認します。また、被災文化財再生を通して構築された国内外の絆の重要性を再認識し、あわせて被災した博物館の復興に必要な支援について、米国からの研究者を交え意見交換します。

この支援シンポジウムを契機とし、現在被災地で進められている被災資料の安定化処理に対する理解が深まり、その活動に対する支援の輪が広がること、そして一連の活動を通して生まれたさまざまな絆が有機的につながり、博物館再興への支援と今後発生が懸念される大規模自然災害に備えた準備がいつそう進むことを期待いたします。